

よえもん



論語から学ぼう
(記念館の玄関前に掲示しています)

《 第67号 》 (2020年度)

令和2年度企画展
開催中!

シリーズ
よえもん



論語「泰伯第八之八書 淵田瑞穂さん

詩に興り、
礼に立ち、
楽に成る。

佐藤一斎は、江戸時代のなかごろ、安永元年(1772年)に美濃国岩村藩(現在の岐阜県恵那市)の武士の、佐藤信由の次男として江戸(現在の東京)で生まれました。小さいころから本を読むのが好きで、乗馬や剣道も上手でした。

18歳のときにはじめて書いた、「古文孝経解意補義」という本がありますが、藤樹先生も20歳のころ「古文孝経」という儒学の本をよく読まれていました。

一斎の学問のもとには、藤樹先生とおなじ中国の儒学(孔子※1の教え)からなっていて、宋時代の朱子※2や明時代の王陽明※3の教えに興味を持ったことから始まっています。

他の人の書いた詩や文章を理解することは自分以外の人の持つ高貴で豊かな感情が分かるということです。これが、教養の始まりとなります。また、喜び方、お祝いの仕方、悲しみ方にも、それぞれの美しいあり方というものがあります。これができて初めて人としての教養が立つものです。人それぞれという個性を尊重しながら、見事な調和がとれていて、社会という一つの音楽を奏でることができるものです。これができないと教養があるとは言えないものです。丁寧に生きていくことが大切でしょう。



佐藤一斎肖像画(恵那市教育委員会所蔵)



東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives

佐藤一斎七歳書「福寿」

※1 孔子(紀元前551?~479年) 中国で儒学を始めた人

※2 朱子(1130~1200年) 中国で朱子学を始めた人

※3 王陽明(1472~1528年) 中国で陽明学を始めた人

* 記念館だより *

令和2年度がスタートしました。新しい職員3名も加わり、新体制で運営していきま

す。昨年度末から世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス禍により、来館者や本館を利用して研修される方の人数が減ってきています。年明けから暖かい日が続く、来館者が増えることを期待していたのですが…。しかし、今は日本中、世界中の人々が力を合わせて感染拡大を防ぐことに努力をしなければなりません。心をひとつにして一人ひとりができることをしていきましょう。4月から新たに3名の職員が加わりました。山元祐人、林宏和、武田基裕です。日々精進して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

